

# 第25回学校評議員会 会議録

平成22年12月18日（水）15:30～17:00

弘前高校応接室

出席者 学校評議員 5名  
学 校 側 校長、教頭（司会）、事務長、  
教務主任、進路指導主任、生徒指導主任、教務部員（記録）

## 1. 校長挨拶

校長	<ul style="list-style-type: none"><li>・今回は学校評価の結果を発表申し上げます。その後で、ご意見なりご質問をいただければと思います。</li><li>・夏の沖縄インターハイには陸上、ウェイトリフティング、空手が、宮崎の全国高総文に写真、囲碁、放送が参加し、新人戦では各部が活躍しました。今は部活動のシーズンが一段落し、落ち着いて勉強しております。</li><li>・まず、「学校経営診断」（所謂管理職に対する通信簿）について説明します。管理職とは校長、教頭、事務長のことで、先生方や事務職員から忌憚のない意見をいただきました。「質問内容」の1番「本校では計画が予定通り進行しないことがある。困ったことだと思っている」から「本校には他の部門の仕事に積極的に協力しようという意欲がない」まで40項目があります。いずれも学校の経営に関して否定的な意見です。中でも、「本校では、いま進めていることよりももっと大切な重点があるのではないか」は、5段階評価の平均3.1で非常に低い。かなりの職員がこれに同意し疑念を持っていることを意味します。</li><li>・一昨年<sup>から</sup>のアンケートと比較しても評価が下がっていて、管理職に対する評価は非常に辛い。反省しなければいけない。一番低いのは、「学校での意志決定に参画する人、意志決定の方法等についてこれでいいのだろうか」と疑問に思っている」が2.9です。「企画や推進の仕方についてとまどいを感じたりや疑問に思っている」も、3.1と非常に低い。管理職としてきちんと考えて改善していきたいと考えております。</li><li>・傾向として、中間管理職としての主任の先生方が非常にストレスを感じていて点数が低い。逆に主任ではない先生方の評価が少し高くなっている。年代で見ますと、若手の40代未満がわりと辛く<sup>から</sup>非常に不満を思っている。50代とか年配の先生方は、わりと評価が高い。これを踏まえて今後の学校経営に関して生かしていきたいと考えております。</li></ul>
----	---

## 2 学校評価結果についての報告

司会	<ul style="list-style-type: none"><li>・次に、各分掌からご報告いたします。教務から「学校評価集計」と「授業アンケート」を中心として、ご説明申し上げます。</li></ul>
----	---

## 教務

・「学校評価集計」と「授業アンケート」の2つの評価についてお話ししていきたいと思います。まず、「平成22年度学校評価集計」は全保護者対象です。5段階評価のマークシートで提出してもらいました。欄外には、無記名で「自由記載」の空欄も設けてあります。非常に多くの保護者から忌憚のないご意見を多数いただきまして、大変感謝しております。

・まず、回収率78.6%、回答総数661と、昨年度は61.8%で新型コロナウイルスの影響もあって過去最低でしたが、今年度は過去5年間で一番多い回収率となりました。非常に多くの保護者の皆さんの学校に対する関心が高くなってきていることを肌身に沁みて感じております。それに伴って自由記載も非常に厳しい意見も出ております。

・高い評価としては「学習」、「ねふた制作」、「入学後の満足度」です。しかし、一方で「満足度」が0.2ポイント、「学習環境」も0.27ポイント、「部活動」も0.23ポイント下がっています。

・自由記載でも、「部活動の練習時間が長すぎて勉強に支障」、「部活動の終了指導、時間の確認を」との指摘があり、部活は終わっているのに生徒は家に帰ってこないとか、中には土日休みだが自主練習が可で休めないまま部活を続けている現状があります。また、「子どもが部活動に所属しているが、週末課題と土日の試合が重なり1学期は両立に非常に苦労していた。課題を考えて出していただきたい」、「学校活動と部活動の調和について入学時に学校から話されたが口だけだ」との厳しい意見もあります。

・「学習活動」について満足度は非常に高いが、矛盾するコメントも多い。「学校側は、進学実績達成のために詰め込み管理主義である」「すべきではない」「やめてもらいたい」とか、「成績上位者の立場にしか立っていない指導に陥って不満がある」とか否定的な意見です。一方では「熱心に指導してくださって感謝しています」「子どもが楽しい学校生活を送っていて満足しています」という意見もいただいています。校内でも「週末課題や長期休業中の課題の量や質・与え方について、教科主任や学年主任が掌握した上で調整をとる必要に迫られている」という指摘もあります。

・「学習環境」も落ち込みが大きい。今年は非常に暑く、「教室へのエアコン設置希望」「温度管理をしっかり」が自由記載に多く見られました。施設の問題は経費の件から難しく、我慢すべきところは我慢させ、工夫できるところは工夫して乗り切っていきたい。今年は、校長、生徒指導部に迅速に対応してもらい、猛暑のころは登下校時以外の授業中はトレパンでも構わない措置をとっています。授業中でもこまめに水を摂るように指導して熱中症対策も十分対応できました。

・「ロッカー、更衣室を設置してもらいたい」は、多くの課題や沢山の荷物を詰めたバッグを掛けておく場所がないので話題になっていました。廊下は消防法で難しいし、教室に設置するには狭すぎます。

・「生徒の悩みに対する適切な指導」と、「進路選択で家庭と連携して適切

な指導にあたっている」は、非常に評価が低い。子どもが親に対して学校で相談したことや対応をきちんと伝えていない、親子のコミュニケーション不足ということではないか。前回の評議員会でも、「担任の先生は機会を捉えて頻繁にまめに面談を行っている」とお話しし、評議員の方もよくわかったと。むしろ、その際に言われた「そういう風にやっているなら何らかの形で保護者にアピールしていい」点が、評価の低さにつながっているのではないかと。「学年便り」とか、PRの必要性を感じました。

・「保護者を対象とした授業公開」は評価がやや上がっています。因みに、今年度授業参観にいらした父兄は71名です。昨年度はインフルエンザの関係で11月に再度行いましたが、延べで50人でした。来年度は4月の中旬にPTA総会時に土曜日に生徒を出校させて、午前中は平常授業で午後一時間の授業公開をやり、その後校長講話、PTA総会と計画を立てております。以上です。

教務

・「授業アンケート集計結果」は、教師自身が授業に対するフィードバックとして活用します。目に付くのは「板書が見やすくてまとめ方も分かりやすい」で、外国語、地歴公民が他と比べて落ち込んでいる点、いつもながら感じます。「進め方」「授業レベル」も数学と理科が低いという結果になっております。以上です。

司会

・それでは次に、進路指導の方からお話しします。

進路

・来月行われます大学入試センター試験を、3年生の殆どの生徒が出願します。毎年12月に進路研究会を3年生と進路指導部で行っていますが、そのときの第一希望、主な大学を載せたものが「平成22年11月末、主な大学志望状況」で、前年度と今年度の2年分を載せています。殆ど昨年度と状況は変わりません。強いて言えば、北関東の千葉大、筑波大が昨年度より数字が減っていますが、弘前大、北海道大、東北大と殆ど昨年度と同じ状況になっております。

・弘前大学医学科、東京大、一橋大、横浜国立大、新潟大も例年と殆ど同じ状況になっております。医学科全体でも昨年度と殆ど同じになります。

・推薦入試は、11月30日現在で東北大、防衛大、私立大に合格しております。指定校・公募推薦も入っております。東北大は例年より若干少ない状況だと思います。指定校は例年と殆ど同じです。

・全体的には国公立希望者が非常に多く、第一希望者が85%となっています。これも昨年度と殆ど同じ状況です。

・3年生はあと1ヶ月でセンター試験を控えて、毎日、教室、進路ホール、図書館、図書ホール等に終日残って、非常に頑張っている状況です。ここから2月末・3月上旬まで現役の追い込みをして、是非第一希望に合格してほしいと考えています。以上です。

司会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後に生徒指導から、生徒の状況についてお話しします。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻者ですが、前回ご報告した後の7月から2ヶ月間の総数は、1年生から各学年11名、8名、9名と若干減っております。ただ、特定のメンバーが遅刻しますので、冬時間になって8時30分近辺で来る生徒を強く指導し、早めにくるよう習慣づけたいと思います。来年度から登校を10分早めて時間の有効利用を習慣づけ、早め早めの登校を促していきたいと考えております。ご協力をお願いします。</li> <li>・最後に、部活動の補足です。今年の高校総体のウェイトリフティングは、2年生男子が全国8位入賞です。来年の北東北インターハイで優勝を狙っております。ゴルフの1年生男子は、県優勝をして全国大会へ進みました。高文連では放送部が、朗読部門で1年生女子が最優秀で来年度の全国大会へ。ラジオ制作部門でも最優秀で全国大会出場が決まっております。陸上女子の100メートルハードル、走り幅跳びで2年生女子が新人戦県大会で優勝しています。新人戦県大会団体戦ではバスケット女子とバドミントン男子がベスト8でした。例年通り部活動も勉強も頑張っておりますので、ご協力をよろしく願いいたします。以上です。</li> </ul>

### 3. 意見交換

司会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは「学校経営診断」について、ご質問・ご意見お願いいたします。</li> </ul>
評議員 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は、具体的に踏み込んで一般の教職員の意見を吸い上げた上でこういう結果になったのか。</li> </ul>
校長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに職員全員に対して経営方針を申し上げます。それをベースに主任会議、職員会議で、大きな目標に則って個別の事例について所信を説明します。大きな目標を了解してもらったならばやっていただいて当然ということが、職員の中では一致してそうしましょうということにならない。個別のことになってくると反対意見が出てきます。それで、こういう批判が出てくる。仕事の分担が偏っている、自分のところが人数が少ないのに仕事が多い、いろんな決定が自分とはかかわりのないところで成されている、これらの不満が顕著な特徴でないか。</li> <li>・ある程度はやむを得ない。これだけの人数の全員がひとつになって一致してやっていくことは難しい。しかし、全体で3.6前後の評価は悪くはない。これくらい不満があっても押すところは押していかなければいけない。個別にフィードバックして返す余裕はないし、ポイントの低いところで返しても堂々巡りになる。私の考えがわからないという点は、更に情報を発信するとか謙虚に反省しなければいけないとは考えますが。</li> </ul>

評議員 B

・当然の結果。校長も事務長もともに新任で、当然変えてくれるという期待があって、一方で引き継ぐことがある。そうすると必ずマイナス評価が出てくる。ただ、先ほどの質問にあったように、例えばうちは全職員に対して説明会を開いています。1対1対応で、もしも質問があって必要だったら受け付ける形でやっている。それは大変です、全部回るわけですから。でも、必要なことだと思います。

・私たちはトップダウンのやり方に慣れてない。今まで合議で決めてきたという話が必ずされる。例えば、法人化されたらトップダウンで良いわけです。でも、「そうじゃない」「私が言ったことでひっくり返る」と思っている方がいっぱいいる。言うのは簡単だが、そういう気分が醸成されていない点で、企業におられる方や組織を運営されている方から見ると、歯がゆいと思う。徐々に変わってゆく以外に方法がない。ありとあらゆるテクニックを駆使してやらないと向かってゆけない。一方で、危機に向かえば強権発動が一番簡単に解決するけれども、後のダメージが大きい。

司会

・それでは次に、「学校評価」「授業アンケート」についていかがでしょうか。

評議員 C

・元保護者の親として、これを6年前に書いた記憶があるが、これを基にして毎年過去どうだったか会議を開いていることを初めて知りました。週末課題が多いとか少ないとか好き放題書いていました。難しくしてくださいという親もいれば、部活もあって大変だから少なくしてくださいという親もいると思う。そこを先生方が生徒たちの要望を捉えるか至難の業だと、あらためて学校評価を見て好き勝手書いてたことを反省しています。自分の子どものことしかなかったもので。

教務

・私どもも斟酌しています。たまにぐさぐさと胸に刺さりますが、お子様を思うあまりのことなのだと謙虚に考えるようにしています。

評議員 B

・「生徒の悩みに対する指導」は、保護者に対する説明が不十分なのではないか。こう思うということは、やっていることを知らない。要は宣伝活動の不足。だから、システムがこんなふうで、こうやってるんだというケアを何度も声を大にして言わないといけないと思います。

教務

・その通りです。学校の様子がわかるように「学年便り」とかを出してもらいたいと。それから、ハイパーQ-Uテストを実施する予定です。生徒理解や援助に非常に役にたつものです。

評議員 A

・なかなか難しい。例えば設備は学校に来ないと分からない。今年学校に来た保護者は71名、アンケートに答えた人は661名で、全員答えたと

	<p>しても10%ぐらいの人しか実際に学校に来ないで答えていてバランスに欠ける。子どもから聞いてるか卒業生から聞くとか、そういう昔の感覚で答える話を聞いている。</p>
司会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは全体を通じてお話ししたいことがあればお願いいたします。</li> </ul>
評議員A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方の校内での研修はどうなっていますか。何をやっているかということを外部に発信することが自己研鑽になると思います。</li> </ul>
評議員B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いを数値化する難しいことに挑戦していることに感心しました。</li> </ul>
評議員D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は今回で終わりです。子どもを学校に入れているときは子どもしか見えてない、先生の立場を考える余裕はなく、結局自分の子どもを中心にしていた。こうしてずっと離れてしまってから、いま先生方が様々なことをしているとかが苦労があるとかお話を伺うと、そういうふうにして先生たちは子どもたちに接してしいたのだと、つくづく感じて本当に感謝しています。ただ、社会人になった子どもと話をすると、生徒のときには伝わってないが、社会に出て生徒と逆の立場になって初めてわかると、先生方の理解されない大変さは続くと思ひまして、また感謝の気持ちを強くしています。</li> </ul>
校長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後に。今年も近辺の中学校の校長先生と直に顔を合わせて話をして参りました。本校に対する期待は非常に高い、どれくらい本校に入学したかが中学校のステイタスになっているそうです。一方で、本校入学後まっすぐ勉強にむかうことができない子どもたちがおります。来年からは、多角的に子どもたちの実態を見て支援していこうと思っています。しかし、本校は地域のトップ校です。力のある子たちを力のある学校に送らなければいけないという使命があります。進学校として子どもたちを鍛錬することを続けていかなければいけないという二律背反を持っています。更に、勉強の大事な時間を費やして伝統のねぶたをやらなければいけない。そういう問題をオープンにして、子どもたちが「弘高にきていがったな」と満足し卒業していくために先生方とともに頑張っていきたいと思ひますので、今後も忌憚のないご意見をいただきまして、叱咤激励していただければと思ひます。本日は、ありがとうございました。</li> </ul>